世界の主な地震

平成 30 年（2018 年）３月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図１に示す。また、その震源要素等を表１に示す。

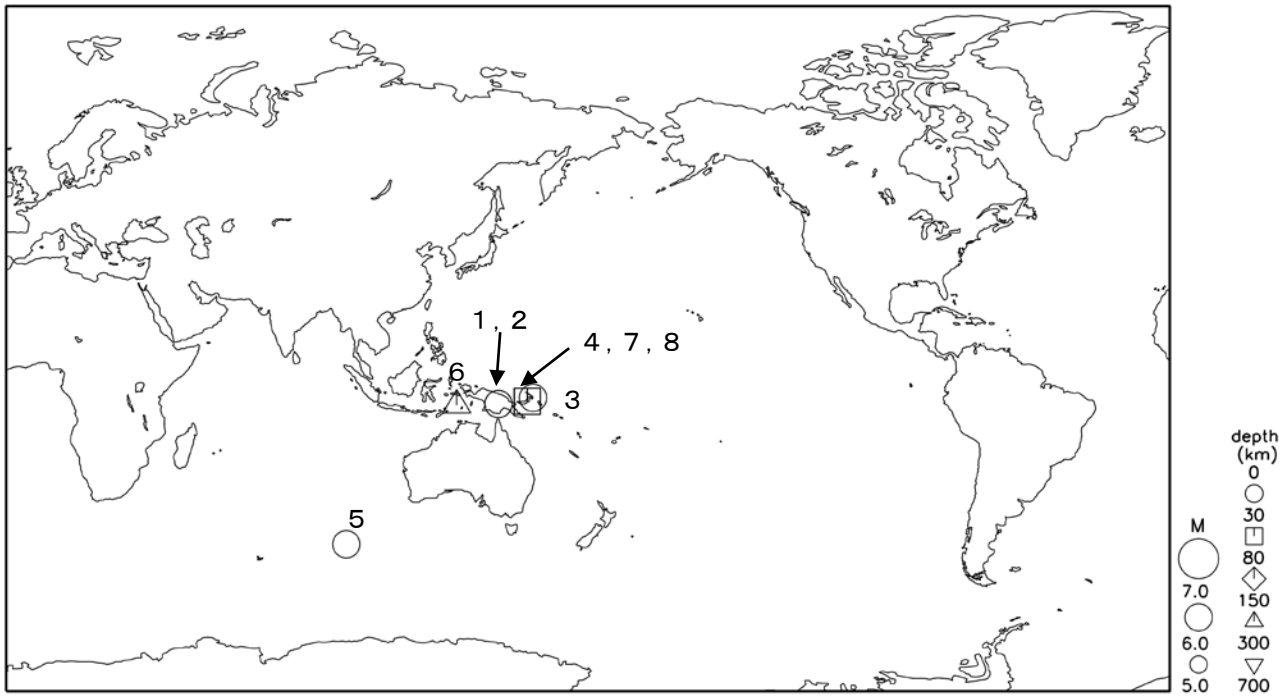


図１　平成 30 年（2018 年）３月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表１　平成 30 年（2018 年）３月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	05日04時56分	S06° 18.4'	E142° 37.2'	10			6.0	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱ ﾆｭｰｷﾞﾆｱ			
2	06日23時13分	S06° 17.6'	E142° 36.8'	10			6.7	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱ ﾆｭｰｷﾞﾆｱ			
3	09日02時39分	S04° 23.3'	E153° 12.1'	15			6.8	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱ ﾆｭｰｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ		○	○
4	24日20時23分	S05° 29.8'	E151° 29.8'	33			6.3	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱﾆｭｰﾌﾞﾘﾃﾝ付近		○	
5	25日04時58分	S45° 49.8'	E096° 5.9'	10			6.3	インド海嶺南東部			
6	26日05時14分	S06° 39.3'	E129° 52.0'	172			6.4	バンダ海			
7	26日18時51分	S05° 27.7'	E151° 23.8'	40			6.6	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱﾆｭｰﾌﾞﾘﾃﾝ付近		○	○
8	30日06時25分	S05° 28.5'	E151° 26.5'	35			6.9	ﾊﾟﾌﾟｱﾆｭｰｷﾞﾆｱﾆｭｰﾌﾞﾘﾃﾝ付近		○	○

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの”Earthquake Archive Search & URL Builder”(http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/) による（2018 年４月２日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
・ 被害状況は、出典のないものは OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
・地震発生時刻は日本時間［日本時間＝協定世界時＋９時間］である。
・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）（地震・火山月報（防災編）2005 年５月号参照）を発表したことを表す。
・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
・深さに「*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。

気象庁作成

３月９日　パプアニューギニア、ニューアイルランドの地震
３月 26 日、30 日　パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

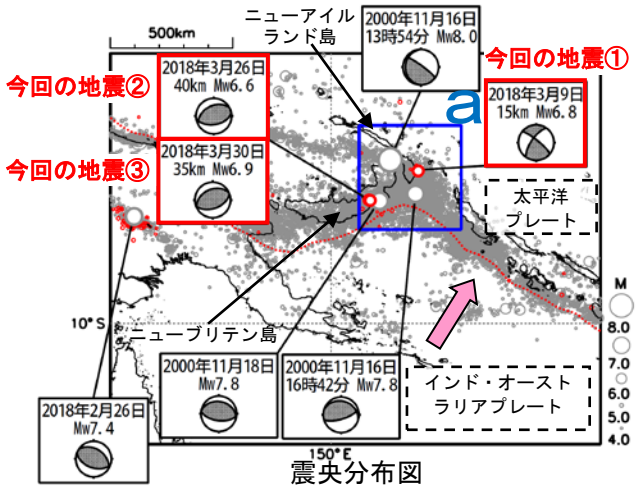
2018 年３月９日 02 時 39 分（日本時間、以下同じ）に、パプアニューギニア、ニューアイルランドの深さ 15km で Mw6.8 の地震（今回の地震①）、３月 26 日 18 時 51 分及び３月 30 日 06 時 25 分に、パプアニューギニア、ニューブリテンのそれぞれ深さ 40km で Mw6.6、深さ 35km で Mw6.9 の地震（今回の地震②③）が発生した。今回の地震①の発震機構（気象庁による CMT 解）は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震②及び今回の地震③の発震機構（気象庁による CMT 解）は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

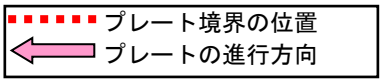
気象庁は、９日 03 時 03 分（今回の地震①）に、26 日 19 時 17 分（今回の地震②）に、30 日 06 時 46 分（今回の地震③）にそれぞれ遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。なお、これらの地震の西に位置する同国のニューギニア島では、2018 年２月 26 日の Mw7.4 の地震の発生以降、地震活動が活発になっており、地震による地滑りにより少なくとも死者 100 人以上の被害が生じている（３月 17 日現在）。

2000 年１月以降の活動をみると、今回の地震①②③の震央周辺（領域ａ）では、2000 年 11 月 16 日に Mw8.0、Mw7.8、11 月 18 日に Mw7.8 の地震が連続して発生し、11 月 16 日の Mw8.0 の地震では、死者２人、住家被害多数の被害が生じている。

1963 年１月以降の活動をみると、パプアニューギニア周辺（領域ｂ）では、インド・オーストラリアプレートの沈み込みに伴い、M7.0 以上の地震が頻繁に発生しており、非常に活発な地震活動がみられる。

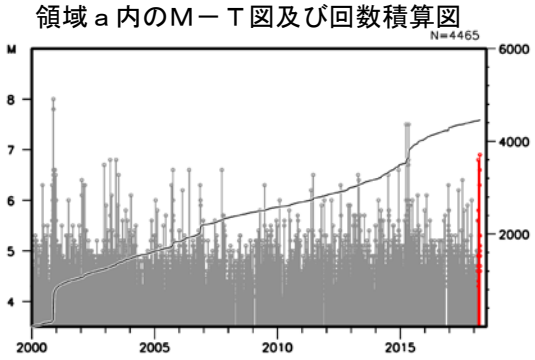
震央分布図
（2000 年１月１日～2018 年３月 31 日、
深さ０～100km、M≧4.0）
2018 年３月の地震を赤く表示



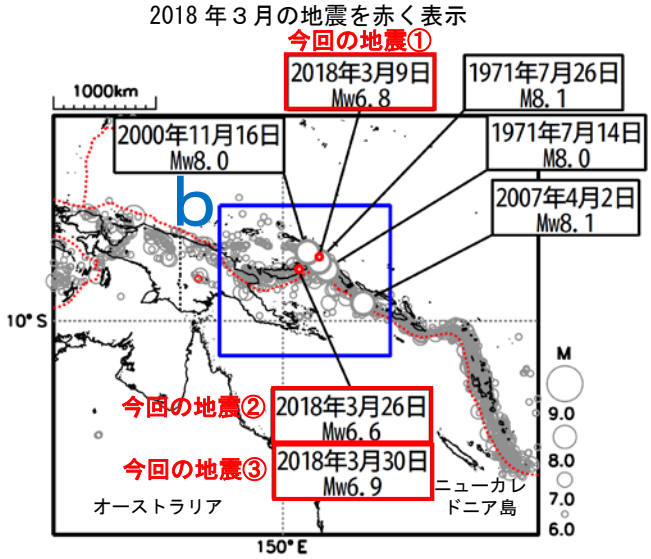


プレートの進行方向は、太平洋プレートを固定した場合の相対的な方向である。

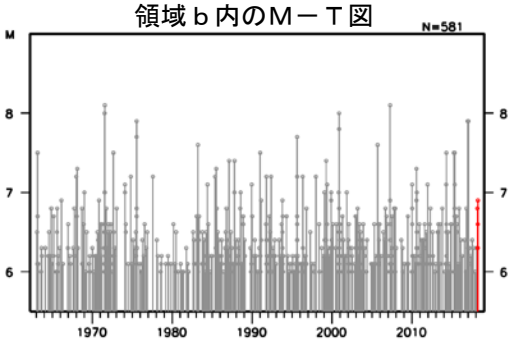
領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



震央分布図
（1963 年１月１日～2018 年３月 31 日、
深さ０～300km、M≧6.0）
2018 年３月の地震を赤く表示



領域ｂ内のＭ－Ｔ図



※本資料中、今回の地震①②③及び 2018 年２月 26 日の地震の発震機構と Mw は気象庁による。そのほかの地震の発震機構と Mw は Global CMT による。震源要素は米国地質調査所（USGS）による。2018 年２月 26 日の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（３月 17 日現在）。その他の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向は Bird（2003）*より引用。

＊参考文献　Bird, P.（2003）An updated digital model of plate boundaries, Geochemistry Geophysics Geosystems, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成